

小中学校耐震診断の結果表(平成24年度診断)

学校名	棟用途	棟番号	建築年度	構造※1	階数	面積(m <sup>2</sup> )	耐震2次診断結果		備考
							IS値※2	判定※3	
樽前小学校	校舎	①-1	S30	RC	1	794	0.94	A	
		①-2	S40	RC	1				
		⑩	S62	CB	1				
苫小牧東小学校	校舎	③-1	S40	RC	1	432	1.00	A	
		③-2	S55	S	(2)				
若草小学校	校舎	①-5	S50	RC	2	375	0.74	A	
糸井小学校	校舎	①-4A	S55	RC	1	242	2.47	A	
北光小学校	校舎	①	S31	CB	2	2,813	0.33	B	CB造であるため、1次診断結果
		②-1	S31	CB	2				
		②-2	S39	CB	1				
		③-1	S31	CB	2	657	0.48	B	
		③-2	S39	CB	2				
		③-3	S39	CB	2				
北星小学校	校舎	②-1A	S52	S	3	1,471	0.16	C	
		②-1B	S52	S	1	246	0.73	A	
		②-2	S53	S	3	708	0.15	C	
		②-1C	S52	S	3	3,562	0.12	C	
		②-3	S53	S	3				
		②-4	S54	S	3				
澄川小学校	校舎	①-1	S54	S	3	4,839	0.27	C	
		①-2	S55	S	3				
	体育館	②-1	S54	S	2	1,014	0.22	C	
		②-2	S55	S	1				
豊川小学校	校舎	①-1B	S56	S	2	1,058	0.72	B(※4)	
		①-2	S57	S	3				
		①-1A	S56	S	3	5,924	0.70	A	
	④	S61	S	3					
	体育館	②-1	S56	S	2	1,200	0.52	B	
		②-2	S56	S	1				

※1 RC:鉄筋コンクリート造 S:鉄骨造 CB:コンクリートブロック造

※2 IS値とは、地震力に対する建物の強度や粘り強さなどの耐震性能を表す指標で、大きい数字ほど耐震性能が高くなります。

◎IS値の判断基準(震度6強から震度7程度の大地震に対して)

0.6以上(文部科学省では0.7以上)	倒壊又は崩壊する危険性が低い	判定 A
0.3以上~0.6未満(文部科学省では0.7未満)	倒壊又は崩壊する危険性がある	判定 B
0.3未満	倒壊又は崩壊する危険性が高い	判定 C

・文部科学省では、学校としての特殊性と地域の避難場所としての機能を加味して、安全の目安を0.7以上としています。

※3 上記※2より、IS値の判断基準のそれぞれの分類毎に「判定」をA、B、Cと定めます。

※4 豊川小学校校舎はq値が0.92であるため、B判定となります。(q値(保有水平耐力)とは、建物が地震による水平方向の力に対して対応する強さを表す指標で、1.0以上あれば倒壊や崩壊の危険性が低く、1.0未満では危険性があるとされています。)